

B. 円滑な学位授与の促進**③論文作成支援の充実****●日本社会事業大学 社会福祉学研究科社会福祉学専攻****「福祉サービスのプログラム評価研究者育成」の事例 <人社系>****具体的に何を実施したのか**

評価研究教育コーディネーター1名を採用して新設した院生の評価実習科目を支援するとともに、博士後期課程の4名をTA・RAとして採用し、コーディネーターとともに福祉プログラム評価研究プロジェクトに係わり、博士前期課程生の論文作成支援を推進した。また、院生が論文作成に必要な機器やコンピューターソフトの整備、文献データベースを導入し、福祉領域の海外文献をより入手しやすくした。

実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと

福祉プログラム評価研究者養成のために、福祉プログラムに係る新設科目における講師陣との調整や院生の実習の進め方について助言する役割のコーディネーターやTA・RAを集めた打ち合わせを行うなどして、進捗確認を行うことで院生への助言方法を共有することができた。また、物理的支援となる機器等については多くの見積もり比較をするなどしてより安価な方法により取得した。

どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか

評価研究教育コーディネーターや博士後期課程をTAやRAとして採用したことで、博士前期課程生からの、論文作成に至るまでの相談が増えるとともに、院生が導入した機器を活用し、調査データの分析や先行研究における海外文献の検索数が年々増加した。

●大阪大学 基礎工学研究科システム創成専攻**「システム創成プロフェッショナルプログラム」の事例 <理工農系>****具体的に何を実施したのか**

グループディスカッション用ICT教育機材の整備に基づき、海外研修の外に、海外研究拠点との間だけでなく、専攻内での少人数研究ディスカッションを時間制約、空間制約を超えて加速化させ、様々な授業形態、様々なフィールドでの研究活動を経験させることで、コミュニケーション能力を向上させる実施体制を確立した。科学技術英語活用能力、コミュニケーション能力等を指導する「大学英語支援室(AESS: ACADEMIC ENGLISH SUPPORT SERVICE)」において、外国人英語指導教員1名を雇用し大学英語セミナー、国際会議集中特訓コースを開講し、技術英語活用に関

する個別指導と外部業者による英語校閲指導を実施し、学生の英語活用を支援する体制を充実させ、英語誤用の分析等を通して、英語力の涵養による国際的コミュニケーション能力を向上させ、高度人材に必要な論理力、表現力、英語力を総合的に育成した。

実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと

専門知識の深化とプロフェッショナル人材の育成を目指した体系的コースワークの一貫として、学術論文を英語で執筆させ、科学技術英語の著述技能教育の完成を図った。外部英語校閲業者と連携して英語表現の実務的指導を行い、このうち、著者の承諾を得て、15件(平成24年2月末現在)の外部英語校閲業者の校閲指摘点を、1.スペル、2.単語、3.構文、4.前置詞、5.冠詞、6.その他に分類分析した。ワープロのスペルチェック機能により、スペルミスはほとんどないこと、冠詞の誤りが4分の1を占めること、単語の選択誤りが1割を占めることが言え、当該専攻の学生の基盤的な英語力向上の必要性が明らかになった。この詳細は、個々の英文校閲情報をデータベース化した「英文校閲データベース」として冊子版と電子版を作成し、HPにより外部公開した。

どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか

外国人英語指導教員による、科学技術ライティング、プレゼンテーションの講習を108名の院生が受講した。そのうち、国際会議集中特訓コースを10名が受講し、259件の技術英語活用に関する個別指導から学術論文の英語化を促進した。この国際会議集中特訓コースにより、国際会議への参加の無用な不安の低減に成功したと言える。大学英語支援室を専攻建屋の利便性の高い中央部に配置し、日本語が流暢な外国人英語指導教員の担当から、相談してただちに助言が得られるため、英語活用に関する質問が著しく増え、積極的な広報をしなくとも、学生同士の口コミで本サービスはひっぱりだことなった。また、英語指導専門業者に事業委託し、学位論文5件、国際会議論文29件、雑誌投稿論文11件の論文著述の校閲に関する指導を受けさせた。そのうち、著者の許諾を得た15件に対して、校閲事例毎に各修正指示された誤用を分類分析し、英語校閲データベースを制作した。このような、英語誤用の生データは初めて得るものであり、研究室での理系専門教員による英語論文指導において、学生の平均的ライティングレベルの設定に資することが初めて行えた。